

みんな みんな

特定非営利活動法人

2001年 11月 5日 Vol. 24
せんだい・みやぎNPOセンター 事務局通信

みやぎNPO支援センターネットワーク

現在、宮城県内には民間でNPOを支援する団体として、全域を対象としている当センターの他に、地域エリアを対象としている4つの団体（気仙沼市・古川市・石巻市・白石市）があります。それぞれの団体は、設立の経緯や組織・活動内容に違いはありますが、民間組織として地域のNPOを支援するという目的では同じ活動をしています。

今回、日本財団からの助成により、地域のNPO支援センター同士の交流と組織経営力強化を目的として「みやぎNPO支援センターネットワーク」を結成、研修と交流事業を行っています。

それぞれの団体の方とは、別な場所や機会にお会いしてはいましたが、支援センターの運営という立場では、今回初めて各団体の方々と一緒に研修を受けたり、懇親を深めたりすることに恵まれ、大変有意義な機会を与えていただきました。

毎回の研修では「目からウロコ」状態で、なるほどそういうことなのかと、その場では理解したつもりでも、いざ自分の組織に持ち帰って実行しようとする、なかなかうまくいかなかったりしています。今回の良い点は各組織より2名以上で参加していることで、1人よりは2人のほうが理解度や持ち帰って実行に移す際には、きわめて有効なパートナーになってくれます。また毎回、地域毎に開催するので、それぞれの地域に何うことにより、地域の現状や抱えている課題を現地できかに体験できました。この研修を機会に、県内5地域でのネットワークがひろがれば、宮城県内のNPOも活動がよりしやすくなることと思います。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 木村正樹

内容

理事エッセイ

パートナーシップをめぐる委託と補助の実際
はみだしトーク、市民起業家スクール報告、部会報告、評議員会報告
東北リレートーク「片平たてもん応援団」

BOOK、事務局活動報告 ほか



第3回 通常総会・記念シンポジウム パートナーシップをめぐる委託と補助の実際 ～NPOはどう考えるべきか～

さる9月9日、せんだい・みやぎNPOセンターは無事に第3回通常総会を終えることができました。今回の総会では記念シンポジウム「パートナーシップをめぐる委託と補助の実際 NPOはどう考えるべきか！」をあわせて開催。宮城県・仙台市の行政担当者と、受託経験のあるNPO関係者をゲストに迎えて、活発な意見交換がなされました。

●1. 行政から～施策動向を聞く

手探りの「評価基準」と「庁内の理解」が課題

まずは宮城県と仙台市の行政担当者から、NPOに向けた事業委託・補助の基本的な施策動向の報告をいただきました。両自治体ともに、NPOへの事業委託を「官民協働実現のための重要施策」として推進する立場にあり、みやぎNPOプラザや仙台市市民活動サポートセンターの管理運営をはじめとした比較的金額の大きいケースも生まれています。それらの事例は件数・規模ともに年々増える傾向にありますが、それに比例して行政が抱える悩みや課題も増えるのも事実。報告者からは、現在の課題として、委託費を積算する際の「委託料の基準」がないことや、NPOの事業遂行能力が行政から見て不明確なこと、さらには、庁内のNPOに対する認識不足などが挙げられました。

●2. NPOから～「委託」の実際を聞く

委託は一つ的手段。「受託」は「下請け」にあらず！

続いて、行政から実際に事業を受託したNPOからゲストを招いて、ご報告をいただきました。今回、リアルな体験談として語られた内容は実践的かつ具体的なもので、「官民協働」のあるべき本当の姿とは何なのかを、改めて認識する機会となりました。例えば、

■行政から 櫻井恭二氏（宮城県環境生活部NPO・青少年室）

そもそも県の事業は、許認可に関する業務以外はほとんどが委託で実施されているのですが、特にNPOへの委託ではその専門性と熱意に期待しています。基本的に県としてはNPOへの委託事業を増やす方針ですが、どのようなNPOがあるのかを各部署があまり理解していなかったり、いざ発注しようとした時に、NPOへの委託料の積算の基準ができていないことなどが課題となっています。

委託事業を遂行する際の条件を、他団体とも連携しながら「政策提言」し、改善させたケース。「受託者」であっても「下請け業者」にはならない。イノベーターとしてのNPOが、行政から事業を受託する際に果たすべき役割を示す重要な報告でした。また、厳しい資金状況の中、明確なビジョンの下で効果的に「受託事業」を使いこなし、自主事業の芽を育てた事例についても大きな関心が寄せられました。委託事業も、NPOにとってはミッション達成のための手段に過ぎません。「委託漬け」なる言葉とは反対に、自立の足がかりとしての「受託」活用法には、参加者からの大きな関心が集まりました。

●3. 問題提起

当センター代表理事の加藤が、ここまでの報告の内容を整理し、新たな問題提起を行いました。

◇市民社会に広がる「公益」

「公益」という言葉の意味合いが、近年大きく変わりつつあります。今までは、行政が「公益」を一元的に支配するというのが社会の構図でしたが、社会が多様化しもはや行政だけでは噴出する課題に対応できなくなりました。そこで、これからはNPO、つ

■行政から 鈴木憲一氏（仙台市市民局市民活動支援室）

99年4月に施行した促進条例を基に、多様な市民ニーズへ対応するためにNPOへの委託を進めている。しかし、どのようなNPOが存在するのかが行政から見えにくい上に、協働事業の評価基準が現状ではわかりにくい。さらには、NPOの事業遂行能力も把握し難いケースがあり、特にこの点は、行政サービスの中立性・安定性の保証とも関係するので、大きな課題であると思う。

まり市民も「公益」の担い手として登場し新たな公共空間の創造に参画する必要が生じてきたのです。「官民協働」の本質とは、そこにあるのです。

◇「委託」と「補助」は違う

さて、「官民協働」を実現する方策のひとつとして、「委託」に熱い注目が集まっているわけですが、このころは「補助」という言葉もよく聞かれます。どちらも元々は税金ですし、その運用にあたって市民からの大きな責任を負う点に変わりはありません。しかし、この二者は、全くその趣旨が異なります。「委託」は本来行政が行うべき仕事を、効率性や専門性を考慮して民間に任せる、ということですし、「補助」とは、民間が独自にしている事業に行政が公益性を認め、資金を提供することを指します。「協働事業」と一口に言っても、それを委託で行うのか、補助で行うのかそれ以外かで大きな違いがあるのです。

◇「協働」の目的を定める

「協働」することそのものが目的になっては本末転倒です。どんな目的のために「協働」事業に取り組むかを、NPO側が把握しておく必要があります。その場合、「多様な市民のニーズへの対応」や「協働を通じた行政改革」、さらに「受益者のメリット向上」などを挙げることができるでしょう。中でも、NPOがもっとも注意を払うべきは、「受益者のメリット向上」だと考えます。なぜなら、NPOには、団体の性質や構成員によって「受益者の代表」としての側面と「サービス提供主体」の2つの側面が並存しているからです。委託や補助事業の中では、この性質に注意を払う必要があります。

◇「委託」「補助」にも原則がある！

では実際に「委託」や「補助」を行う場合の原則はどのようなか。以下の要件が満たされることが必須の条件だと考えます。

①NPOからの提案がなされている

行政に対し「この仕事をこうすれば、これだけの新しい社会的価値を生み出し、それが将来はこのような地域変革につながる」と言ったビジョンを示し、実際に活かすための努力が不可欠です。「下請け業者」にならない鍵です。

②意思決定への参画機会の保証

事業の目的と責任・役割、実施プロセスなどの決定にNPOが参画できることが保証されなければなりません。これが、行政の仕組みや思考の変革につながります。

③NPOのミッションや戦略と事業とに整合性がある

いかなる「委託」であれ「補助」であれ、それがNPOのミッションや戦略と一致していることが必要です。何か特定の「委託」「補助」事業を遂行するためだけに、都合よくNPOが存在している訳ではありません。

④NPO側に事業遂行に必要な人材・ノウハウの蓄積がある

行政から事業を受ける時、それを遂行するに足る資源を、NPO側が持ちあわせているかどうかの見極めも大切。そうしなければ、「委託疲れ」「補助疲れ」で組織は逆に弱くなります。

⑤NPO側の資金をしっかりと確保する

人件費や管理費などを積算してみて、妥当な数字を用意しておくべきです。経済的な見通しについても官民が共に把握することが大切です。

「委託」と「補助」。地域イノベーターとしてのNPOがそれらを適切使いこなすことで、やがては今までにない活動の芽が地域に育つことでしょう。

そうして生み出された活動が、行政の政策に反映され社会制度化されたり、または、地域NPO新しい事業・産業として根付くことが、これからの地域に必要なことだと考えます。

(工藤寛之)

■NPOから 中村祥子氏 (特定非営利活動法人グループゆう)

初年度より仙台市から「先導的ボランティア事業への助成制度」を受け、家賃助成を受けてきた。当初、この助成金は家賃補助プラス300万円という上限があったが、潜在していたニーズを配食数として示したことで、要望の大きさが実証でき仙台市が制度化し、更に、市民団体への助成金の上限を撤廃した。これは大きな意味があった。今後は、障がい者も助成の対象になるように他団体と連携して政策提言していきたい。

■NPOから 大塚洋子氏・島田美代子氏

(特定非営利活動法人チャレンジネットワークみやぎ)

知的障害者(チャレンジド)の自立支援を目的に活動しているが、昨年緊急雇用事業の委託で調理師を雇用した。そこで障害児にパンの作り方などを教えてもらい、障害児の自立に向けた技術・能力の獲得を図った。今年はみやぎNPOプラザの清掃業務を受託しているが、午後は時間が空いているので、クッキーづくりの自主事業を行っている。

5年後の地域の力・住みやすさに効く 連続講座「市民起業家スクール」 現場報告！

9月から始まった「市民起業家スクール」(主催・仙台市、企画実施・当センター)は、2コース合わせて100人の定員を大幅に上回る方から申し込みをいただきました。現在、定員を増やして開催しており11月8日をもって終了します。

本講座は、コミュニティビジネスとして「地域の課題を事業化する」「地域の社会生活の質の向上に関わる事業」を起業するという視点から2コースの講義を行っています。講師の方々もバラエティに富んでおり、NPO(非営利)はもちろんのことPO(営利)、大学教授、経営コンサルタントなど様々です。そのための事業主体もPOからNPOまで広範に捉えており、これまでの「NPOマネジメント講座」や「ビジネススクール」にプラスαした視点が盛り込まれています。この点が、講座毎に寄せられる「目からウロコが落ちた」「今までの価値観が一変した」「人生の上で大切なことを教えられた」などの感想につながっているのではないのでしょうか。

この講座を通して感じたことは、地域の課題を事業化したい/地域の社会生活の質の向上に関わる事業を起業したいという市民はかなり多いということ。これに対して、この観点から学べる場が行政・民間ともに少ないことです。大失業時代を背景にますます高まる起業ニーズを実際の起業・地域サービスの向上という成果にどう結びつけるかが課題ともいえそうです。

このほかにも、新しい関係づくりが進んだことは大きな成果でしょう。それは例えば、これまで関係が薄かった講師の方々、事業化・起業のノウハウを持つ各種行政機関、NPOを知らなかった市民と様々な意見やノウハウを交換できたことです。この事は当センターにとって大変大きな経験になりました。

この事業は、来年3月には報告書としてまとめる予定です。珠玉の言葉がちりばめられた記録になるはず。ご期待ください。受講できなかった方々から本講座の資料についてのお問い合わせを数多くいただいておりますが、こちらは主催である仙台市市民局市民活動支援室(電話 022-212-4088)にお問い合わせいただきたいと思います。

●連続講座「市民起業家スクール」概要

期間 9/18~11/8

主催/仙台市

企画・実施/せんだい・みやぎNPOセンター

□発想力アップコース

- ①未来の仕事とは ②環境 ③まちづくり
- ④地域福祉 ⑤SOHO ⑥ベンチャー
- ⑦ヒューマンサポート ⑧国際協力

□起業力アップコース

- ①起業・成功の秘訣 ②会社・NPOの作り方
- ③事業計画立案1 ④事業計画立案2
- ⑤ビジネスマナー・コミュニケーション
- ⑥企画・ネットワーキング
- ⑦プレゼンテーション ⑧資金づくり

(遠藤智栄)

ほみだしトーク VOL.4

■ビデオチーム結成!!!

AV時代を乗り切るため、また共同募金会のご協力で購入したビデオをフル活用するため、この度、せんだい・みやぎNPOセンター史上最大のお気楽企画としてビデオチームが結成されました。

10月よりスタートを開始したのはいいのですが、約1名を除き、全員がビデオ初心者。「あーでもない、こーでもない」と試行錯誤を重ねている所です。技術がないわりに、妄想だけは激しいこのチーム。「技があがったら、他の団体のプロモーションビデオも撮影するサービスを始めようか?」などと日々夢ばかりを見ている。

目標は、「プロジェクトX」(せ・み・編)、「(?)」(昔ティレクターになる夢を持っていた、という紅邑(Cue)をかっこよく振れないという理由で挫折)は、目を輝かせながらビデオを握り締め、夢の実現とばかりにビデオを撮り巻くっています。

千里の道も一歩から。これから肩の力を抜いて頑張りますので、今後の活躍にご期待!失礼しました。

(中務恵美)

■セナードサロン報告■
第57回 第58回

部会報告

■PONPO-NET■ 9/5 10/24

第57回のサロンは「若者企画2 一緒に考えよう『グループ運営』ってなんだらう？」というテーマで、9月20日（木）に開催されました。特に盛り上がったのは、会員同士のコミュニケーションの差を埋める手段の1つである「飲みコミュニケーション」についてです。有志の飲み会の席での話が団体の決定事項になることはないですか？そこから会員間の温度差が出てしまうことに、はたと気がついた参加者達なのでした。「飲みコミュニケーションに頼りすぎると危険だ！」というこの事実……皆さんのところはどうか？

第58回のサロンは、今話題のコミュニティビジネス（CB）に焦点を当てて、10月18日（木）に行われました。山形、岩手での事例の紹介や、CBのサポート活動を行っているゲスト・スピーカーからの話、NPO全国フォーラムからの報告など、盛り沢山の内容で、わかりにくいこの分野を理解する為のヒントがたくさん提供されました。CBの本質は、市民活動と営利目的の活動に分化する以前のプロセス、“種”である、という話を通して、参加者それぞれに考えるところが生まれたようです。いろいろな可能性を生むCBに、これからも目が離せませんね！

(第57回 田中聡子、第58回 中務恵美)

●次回 12月18日(木)19時から
テーマ「国境なき多文化交流 年末トーク2001」
会場・仙台市市民活動サポートセンター

9月5日はアイセック仙台委員会の国際インターンシップ研修生でタイより来仙中のアマンさんを迎え、「タイにおけるNPO-PO関係」と題して、NPOが発展した社会的背景、具体的な団体、NPOと企業との関係などを紹介していただいた。タイでは政府が機能せず、社会的課題を解決するためにNPOが誕生、企業は地域に貢献することが当然の義務になっているとのこと。アマンさんからは日本の状況に対する質問が出るなど、タイと日本のNPO-PO関係について比較することができました。

10月24日は「華麗なるタイ料理と環境の調べ」と題して、アマンさんと一緒に作ったグリーンカレーとトムヤンクンを味わいながら進められました。タイの環境問題、NPO（シンプルエコネット）・企業（宮城ゼロックス株）の環境に対する取り組みについて話題提供していただいた。意見交換では、アメリカより来仙中のジェーンさんからもアメリカの環境対策の紹介があり、一口に「環境」と言っても、さまざまな切り口があることがわかりました。この日は国籍も立場（NPO・企業・学生）も様々な人たちが一つのテーブルを囲んでおり、当会の持つ魅力や秘めたパワーをあらためて感じる事ができました。

(中津涼子)

会議室提供・東北NSソリューションズ(株)
(名称変更前：東北エニコム(株))

第2回評議員会 報告

去る、10月9日（火）、第2回評議員会を戦災復興記念館にて開催。大滝代表理事より、現在当センターが取り組んでいる特徴的な事業の紹介と今後3年先位を見ながら新しい事業を進めていきたい、という挨拶で始まりました。今回は評議員11名が出席。企業関係者とNPO関係者と半々の割合で、仙台市内からお越しいただいた方が多い中、石巻、山形、岩手の支援センターの方にもご出席いただきました。理事会からは7名が出席し、活発な意見の交換が行われました。その中から2点程ご紹介してみます。

Q1. センターのポジションニングは？

A. 全国に100程NPO支援センターがある中で、事業の量と規模と質では上部の方ではないか。各地から注目され、参考にされることが多く、いい加減なことではできない。企画力、コンサルティング力、マネジメント力を外側に向かって発信しているだけではなく、内側に向けても運営、理事会のあり方など注意深く行っている。

Q2. オリジナリティは？

A. 他のNPOセンターより早く気づき着手している事業等が多い。e×市民起業家スクール／サポート資源提供システムII企業の社会貢献は各社が個別に様々なことを行っているが、組織的にこれだけの企業が参加して行う事は初めてではないか／アドボカシー機能など。

最後に木村理事より、「他の成功事例を学ぶだけでなくNPO以外の意見も集約し、企画実施していく事業が先行事例になるよう取り組んでいきたい。11月に理事合宿があるので、本日のご意見を参考にしたい。」と閉会の挨拶がありました。
(青木ユカリ)

東北リレートーク

宮城県 仙台市 片平たてもの応援團

横浜の赤れんが倉庫や長崎の天守堂、札幌の時計台。これらは皆、文明開化以降に西洋から流入した意匠と技術を取り入れて建てられた「近代建築」と呼ばれる建物です。そんなおしゃれで夢のある建物は、仙台にもあります。そこが東北大学片平キャンパスです。震災にあっている仙台では、現存する近代建築の約半分がここにあります。

片平キャンパスの歴史ある建物の良さを、市民に広く知ってもらいたい。そして、建物の保存・活用につなげよう！と活動しているのが私たち「片平たてもの応援團」です。3年前の春にたった2人から始まり、現在の「団員」は約140人！これまでの活動実績は、

- 月例ゴミ拾いボランティア ●キャンパスの建物見学会 ●「片平たてもの通信」の発行
- 片平キャンパスの未来を語る集い ●パネル企

画展の開催 ●「片平キャンパスお散歩マップ」の制作販売、等々…。

歴史の積み重ねと、緑の木々が織り成す文化の薫りのするこの空間は、古くから仙台の中核であり、仙台が「学都」である所以でもあります。その片平キャンパスは今、移転問題が浮上しています。もし移転が実現するとしても、歴史ある建物は壊すことなく、市民の財産として次の世代に伝えたいのです。

一度是非、キャンパスに足を運んでみて下さい。「仙台にこんな良い所が?!」と思うはず。仙台の「近代建築の博物館」が、ずっと市民の憩いの場であり続けるにはどうすべきか？応援團は活動を通じて模索し、訴え続けます。(櫻井久美)

※「片平たてものお散歩マップ」(200円)は、当センターでも販売しています。

■ 片平たてもの応援團 ■

980-0014 仙台市青葉区本町2-8-15-67

市民活動サポートセンター内

Tel・Fax 227-4174 (櫻井)

Eメール mike2@cocoa.ocn.ne.jp

ホームページ <http://xt.sakura.ne.jp/katahira/>

BOOK

日本経済

勝利の方程式

島田 晴男著 講談社α新書

本体740円+税

「川上哲治からイチローまで」といっても過言ではないくらいに幅広い時代背景をかなり大胆に(過激に?)批評し、新しい成功の方程式を提示している本である。「失われた10年」「日本の終わり」「金融敗戦」…。私自身「こんな国に住んでいるんだ」と不安な気持ちになったのは事実。

教育についても、かなり手厳しく批評している。「いまだに同じ規格の若者を大量生産…。」私も約7年間小学校の教壇に立ち、耳が痛い思いをした。

しかし、悲壮感のみを感じて終わったかというところではない。「それはできる。」
「答えは明確だ。」非常に心強い言葉で、自信に満ち溢れた表現で書き記されている。実にすがすがしい。

現在、私は「市民起業家スクール」の運営スタッフである。沢山の応募の中から選ばれた市民の方が、熱心に聞く

姿を見たり、たくさん講師のお話を聞いたりしている。そのことにより、今までの「学校」という狭い空間しか知らなかった自分(給食しか知らなかった私)が、地域と言った空間を少し知った自分(食堂やラーメン屋を知った私)に現在発展途上?しつつあるような気がする。

「温故知新」という言葉を思い出した。著者は、失敗の教訓を生かし、勝利の方程式を提言している。リサイクル住宅、公設民営のケアハウスや家用用運転手など新しい、しかも具体的な事例をたくさん紹介し、これから生き抜くヒントがたくさん記されている。

「いんでねえの」から「こすっぺー」に変えたい人や今回残念ながら「市民起業家スクール」を受講できなかったたくさんの市民の方々にも是非オススメのこの一冊。

(遠藤孝志)

活動
報告

事務局活動報告 (8/24~10/4)

■事務局／自主事業関連

- ・センター会議 (8/29・9/27)
- ・市民活動入門講座 市民活動トレーニングシアター (第1回:8/24 第2回:8/31)
- ・事業・運営会議 (第21回:9/4 第22回:9/21)
- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (9/5・12・19・10/3)
- ・理事会 (第27回:9/9 第28回:10/4)
- ・第3回通常総会／記念シンポジウム (9/9)
- ・PONPO-NET (9/5 紅邑・松尾・中津)
- ・市民活動レベルアップ講座「マネジメントの基礎」 (9/7 加藤)
- ・サポート資源開発プロジェクト ワーキング打合:資金 (9/13 加藤・高田) 研究会 (9/19) NPO向けセミナー (9/22)
- ・セナードサロン「若者企画2 一緒に考えよう!グループ運営って何だろう?」 (9/20 田中・中務・遠藤)
- ・臨時職員面接 (9/6 加藤・紅邑・遠藤・青木)

■NPO／企業関連

- ・日本財団職員研修 (8/25・9/17 加藤)
- ・環境NGOマネジメント講座 (8/25-26 加藤)
- ・第2回講座<白石編> 主催:みやぎNPO支援センターネットワーク (9/1-2 紅邑・青木・工藤・加藤)
- ・評価システム研究会 ワーキング打合 (9/3 9/16 加藤・紅邑)
- ・宮城総合研究所 野田一夫氏と対談 (9/5 加藤)
- ・多文化共生セナリオ<浜松> 主催:日本財団 (9/14-15 加藤)
- ・第3回グリーン電力基金運営委員会／(財)東北活性化センター (9/17 紅邑)
- ・NPOマネジメントパワーアップセミナー<福岡>／住友生命社会福祉事業団・日本NPOセンター (9/23 加藤)
- ・みやぎボランティア総合センター講座 (9/25 加藤)
- ・富士総合研究所委員会 (10/4 加藤)

■自治体関連

- ・仙台まち美化タウンミーティング (8/27 加藤・紅邑)
- ・ふくしま自治研修センター (8/28-29・9/12・26・10/3 加藤)
- ・ステップアップセミナー／仙台市 環境計画課 (9/1 遠藤)
- ・「2001ボランティア国際年記念フォーラムinあおもり」／内閣府・青森県 (9/3 紅邑)
- ・アレマ会議／仙台市 廃棄物管理課 (9/4 加藤・紅邑)
- ・宮城県行政改革推進管理委員会／宮城県 総務部 (9/5 紅邑)
- ・すくすく青年プロデューサー養成講座／宮城県生涯学習課 (9/8・29 紅邑・田中)
- ・社会教育委員会／仙台市 (9/11 紅邑)
- ・宮城県民間非営利活動促進委員会 (9/14・19 紅邑)
- ・市民起業家スクール／仙台市 (9/18・20・25・27・10/4 加藤・紅邑・遠藤智・渋谷・門間・遠藤孝)
- ・NPOマネジメント実践講座<郡山>／福島県 (10/1-2 加藤・紅邑・青木・中津)
- ・宮城県議会議員との懇談会 (10/2 紅邑・高田)

■相談、ヒアリング関連

- ・NPO経営相談 ウペポ・アフリカの風ネットワーク仙台 石原さん (9/21 加藤)

●新スタッフ紹介

10月から臨時職員として活躍中です。
事務局に会いにいらしてみませんか？

①高橋 利恵子、〇十〇才、独身。②採取は仙台、栽培は多賀城。早くどっかへ出荷したいと両親は思っている。③旅行と写真撮影と人間ウォッチング。これらを海外で楽しむところがおしゃれでしょ？④犬同士の喧嘩に巻き込まれて以来、犬とアイコンタクトがとれるようになった。⑤298円のししゃも詰め放題をやり89匹もゲットできたこと。周囲の人々から「すっごい」と賞賛を受け、感動した！⑥「情けは人のためならず」。すべては自分のためだと思って精進に精進を重ねたい。と、言いつつ、ストレスがたまるとキレルわたくし。修行が足りんっ！かな？

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成13年度会員 (五十音順、敬称略、8/24~10/4)

(新規)青木ユカリ、片桐和紀、岸田清美、木村修、郡司敦子、坂下康子、高島紗綾、野田一夫、平嶋怜織、真山隆宏

(継続・個人・正会員)大泉浩一、岡田真秀、片倉玄、木村正樹、鈴木格、高橋幸夫、藤井敦史、横須賀和江、渡邊兼光、渡辺博之

(継続・団体・正会員)AKK仙台、NPOふくおか、白石市民活動フォーラム、白石・みやぎの環境を考える会、まちづくり政策フォーラム

(継続・準会員)おおさきNPO情報センター、千葉康弘、柳沼芳美、渡辺雅昭

●ボランティアスタッフ (五十音順、敬称略)

(事務局)遠藤礼子、緒方布美子、花多山洋子、菅野大輔、細野泰志、本郷正武、榎本真理子

(翻訳)二瓶敏子

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略) 岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、東北NSソリューションズ(PON

PO-NETの会議室を無料提供)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて) 針生印刷(株)塚原雅之さん、渡辺真理子さん(センター内LAN構築、DCs事業サポート)、エルネット仙台(DCs事業のサポート)

催事・サポート案内

■センターサロン

テーマ「国境なき多文化交流 年末トーク2001」

食文化の持ち込みも大歓迎!

10/18(木)19時~ 参加費:500円

会場:仙台市市民活動サポートセンター

参加費500円、会場/お問い合わせ下さい、開始:19時~

■サポート資源提供システム

NPO向け中古パソコン提供/MISA様からのご提供

第2次締め切り 11/10 約40台

第3次締め切り 12/10 約40台

詳しくは当センターまでお問い合わせ下さい。

■フォーラム「評価でつくるNPOパワー」

日時:12/8(土) 13時~

会場:仙台市市民活動サポートセンター

参加費:2000円 主催:評価システム研究会

申し込み:評価システム研究会 TEL 042-359-8605

会員の方へ

■情報ライブラリー開設!!

当センターでは、NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりし、企業や社会に広く公開・発信します。企業や市民と一層連携を図り活動を広げましょう。お問い合わせ下さい。



せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@jca.ax.apc.org

http://www.5a.biglobe.ne.jp/~minminHP/

大好評!ホームページ!更新中!

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんみん編集後記

■2001年は終わりの始まりの年、というのは、橋本治氏の言葉。20世紀の価値観にさよならをする始まりの年だと。アフガニスタンの戦争、炭疽菌、不景気など、確かにいままでの先例や事例が役に立たなくなってきた。そんな中、30年前に作られた映画「猿の惑星」を見た。人類は再びいま、この映画を見るときのかもしれない。(紅邑) ■いや~今年の秋は本当にお世話になりました。秋刀魚さま。なんとって脂ノリノリの大秋刀魚が一尾100円ってもう素晴らし過ぎます。三陸ばんざ~い。おかげさまで9月から10月にかけての我が食卓は、かつてない華やかさだったのでした。で・この先は??(工藤) ■市民起業家スクールより名言の一つ。「語るは最大の治療なり」。女性はよくおしゃべり好きと言われるが男性の多くは苦手らしい。語ることでストレスや不満を吐き出したり、経験を共有したり治療になったりもするという。最近PCを打つ日々が続いているが、体調コントロールのためにもしゃべるぞ!!(遠藤)